



谷戸沢処分場でのオオムラサキの保全



谷戸沢処分場で、国蝶オオムラサキの成虫が生息していることが、平成21年7月に処分場の設置後初めて確認されました。

谷戸沢処分場は、平成10年に埋立が終了し、今年で11年が経過しています。循環組合では、この間に、処分場内にビオトープの整備や、広葉樹の植樹などを行い、生態系を豊かにする努力を行っています。

この結果、猛禽類を含む野鳥や多数の昆虫が確認されており、自然回復が順調に進んでいることが確認されています。



現在、循環組合では、エノキの根元で冬眠する幼虫の保護や、成虫の餌場の整備を進め、オオムラサキの増加を促すなど、さらに処分場の自然環境の回復を進めていきます。



エノキの根元で越冬する幼虫を保全するための柵



オオムラサキの育成ケージ